

(三) 国内外における教育研究交流

(イ) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性

本学は、国際交流の目的とその意義について、『本学と諸国・諸地域の高等教育・研究機関（大学及び高等研究機関）の間で教育と研究における国際協力を推進し、そのために学生と教職員の交流を増やし、互いの高等教育の質を高める。これにより、本学学生・教職員が諸国・諸地域の学術・文化・経済・社会制度について理解を深め、交流相手機関との相互友好を築くことにある。』と認識している。この認識が、本学の「国際交流」に対する基本的な方向を決定させている。本学が開学以来これまで40年近くに亘り培った、主に工学に関する高等教育と研究に関する知見、また活動範囲を国際交流により深化・拡大させ、延いては関係国・関係地域の学術・文化・経済・社会制度について理解を深め、それを互いの友好の発展に資することを目的に国際交流に取り組んでいる。国際交流についての本学の認識とそれに基づく方針は、適切に方向付けされていると云える。

(ロ) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性

本学は、韓国3校、中国2校、台湾2校、オーストラリア1校、米国2校の10外国大学・短期大学と交流協定を結んでいる。また現在、米国の1大学（カリフォルニア州立大学ヘイワード校）と交流協定締結交渉が進行している。ただし、この中には交流協定を結んだだけで、実質の交流が無く、見直しの必要な大学・短期大学もある。交流を活発に行っている大学は、東アジアでは亞洲大学校（韓国）と南京理工大学（中国）、オセアニアではバララット大学（オーストラリア）の3校である。米国の二つの大学、オレゴン州立大学（Oregon State University：OSU）工学部とカリフォルニア州立大学ヘイワード校（California State University, Hayward：CSUH）とは平成14年以降に交流を始めたが、国際交流関係者の数度にわたる相互訪問により、交流のあり方について議論を行い、両大学と平成15年度後半から交流が活発化している。

亞洲大学校と南京理工大学とは、三大学研究セミナーを平成2年度以降開催して来て研究交流に高い実績がある。学生交流は夏期に2～3週間の三校相互研修を実施している。科目等履修生の本学への受け入れと大学院（修士・博士課程）の交換学生の受け入れの実績も高い。これらにより、互いの教育と研究の把握が出来ている。そして相互に刺激し合い、切磋琢磨する良い意味での競争的環境が形成されて来た。この2校とは国際交流がかなり緊密で、交流の水準は高いと評価できるし、今後も引き続き交流のあり方を議論・工夫しながら交流水準の維持が出来ると推測する。英語国であるオーストラリアのバララット大学は、短期集中語学研修での交流である。

平成15年度後半から交流が活発化している米国の2大学は、今後本学の国際化（グローバル対応化）戦略上重要な位置を占めると考える。教育大学であるCSUHとは、

学生の短期集中語学研修、同校が備える留学生のための英語教育機構 **The American Language Program (ALP)** への語学留学、交換留学、大学院への進学、音楽系クラブなど部活動での大学間コラボレーションなど多様で実質的な学生交流、またファカルティ・デベロップメントなどに関する教職員交流に関してグローバル化時代の要請に応える努力を行うこととし、既に短期集中語学研修等について交流の実施を一部開始している。研究大学である OSU とは、交換留学と大学院進学についての学生交流、OSU が開発した新しい工学教育方法である「プラットフォーム・フォー・ラーニング (**The Platforms for Learning**)」の本学への導入など教育交流と教員の研究交流を強く進める方向にあり、学生の交換留学等について交流の実施を一部開始している。このように、本学は現代社会の求める“大学の国際化要請に応える施策”を国際交流において適切に実施・推進している。